

令和4年度 教育厚生委員会 行政視察復命書

R4.8.9

教育厚生委員長 10番 間野みどり

日時 令和4年7月13日(水)～7月14日(木)

- 視察先
- ①長野県大町市役所「公民学連携によるまちなか再生事業」  
②市議会による事務事業評価について
  2. 社会福祉法人「くりのみ園」

以上の行政視察に行きましたので報告致します。

1. 大町市役所「公民学連携によるまちなか再生事業」と  
市議会による事務事業評価について

①大町市は、長野県の北西部、3,000m級の山々が連なる麓に位置し、豊かな水、空気に恵まれ、黒部ダム、立山黒部のアルペンルートの長野県側の玄関口として、多くの観光客で賑わう山岳観光都市です。

人口は、26000 余り、我が伊豆市と良く似た部分の多い市で、議員数も我が市と同じ16人、女性も3人と共通点も多いです。

そんな中、今、どの市も問題点になっている、少子化、高齢化はもちろん、若者世代が外へ出て行ってしまふところは、我が市と同じで、色々模索し試行錯誤しながら工夫している点を、勉強させて頂きました。

その一つ、公民学連携によるまちなか再生事業です。

教育県でもある長野県が、高校生とどのような連携を取っているかが、興味深い視点でした。

その方法は、「信濃大町100人衆インタビュー」とうたった企画で、市の職員(入庁5年未満)を対象に、職員研修の一環として、高校生と地域の人との橋渡しをするものでした。

内容は、ワークショップの参加、他のイベントへの参加、冊子の発行等を通

じて、大町市の良い点を、肌で感じて好きになってもらい、大町市に帰ってきてもらって、活躍してもらいたいという思いがあったと感じました。

お話を伺う中で、リーダー的存在が問題であり、やる気のある皆を引っ張っていくリーダーの育成も大事な事だと思いました。

今、伊豆市でも、伊豆総合高校との連携で、町内の掃除のボランティア等、多くの働きかけがあるので、今後、一つ一つ丁寧に実施し、進めていけたら良いなと思いました。

②議会の事務事業評価については、議会改革の中で、今後の議会のあり方について、議員数の見直し、報酬の見直し等を見据え、これからの議員の人材の発掘や議会は何をどのようにやっているか等、市民に分かりやすく身近に感じてもらい、興味を持って理解してもらいたいとの意もあるようでした。

資料の中の評価シートは、とても工夫されており、これからの伊豆市にも大変参考になると感じました。

また、大町市の議会だよりは、可決、不可決の説明の所が、とてもわかりやすく工夫されていて、これも、今後参考になると感じました。

もう一つ、心配な点として、事務局の仕事量が増えて負担が多くなっているのではないかと、大町市と共通していると感じました。

## 2. 社会福祉法人「くりのみ園」

福祉と農業の連携による障害者への働く場の提供、  
所得向上、就労訓練等について

国や県の政策の援助を受け、発足したようだが、広大な土地の中で、のびのびと働いている姿が印象的な施設でした。

理事長の島津氏が、扇の要になり、障害のある方を慈しみ、無理なく仕事できているように感じました。

また、無農薬にもこだわり、近年、障害を持つ子の増加に関係がなくもないのでは…との理念は、私も同じ思いを感じました。

視察中の鳥小屋での出来事で、2～3羽、小屋から鳥が出てきたので、「あれ～出て来てるよ～」と話しかけると、「大丈夫、鳥は餌がある場所わかっているから、すぐ戻ってくるよ。」と、園生が答えてくれました。広大な場所で、そんな、何でもない会話に、なぜかほっとしてしまいました。

手間暇かけたと思われる有機農産物は、道の駅等にも出荷しているとのこと

で、私が園で求めた、卵やマヨネーズはとても美味しかったです。

伊豆市も、こんな広大な土地はないが、耕作放棄地や遊休農地等、うまく利用し工夫して、活用していく事もできるのではないかと思いました。

#### まとめ

コロナの影響で、なかなか他の市町村との交流が出来ず、久しぶりの行政視察になりましたが、やはり、他の市町村の方や市議会の方の話を実際に聞くことは、大切なことであり、多くの刺激を受ける機会になりました。

その中で、同じような不安や希望もあり、改めて生の声の話し合いは良いなと感じる研修でした。

以上